

教育協力ウィーク サイドイベント⑥

教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) 主催

国際識字デー記念イベント

「若者・大人のための識字・ノンフォーマル教育支援
～第7回国際成人教育会議の成果をどのように実践に移すか～」

1. 背景

9月8日はユネスコが定めた国際識字デーです。しかし、世界の7億6千万人以上が基礎的な読み書き・計算ができず、そのうち6割以上が女性です¹。

こうした状況を改善するための国際的なイニシアティブとして、ほぼ12年に一度開催されてきたユネスコ主催による「第7回国際成人教育会議 (CONFINTEA VII)」が2022年6月15日-17日にモロッコ・マラケシュで開催され、日本を含む142カ国のユネスコ加盟国からオンラインでの参加者を含め1,000名以上が参加しました。本会議では成果文書である「マラケシュ行動枠組み」が採択され、学校に行く機会を逸した若者・成人の識字、職業訓練などのノンフォーマル（学校外）教育を含む日本の国際教育協力においても、マラケシュ行動枠組みの内容を実践に移すことが求められています。

2. 目的

本イベントでは、国際協力機構 (JICA) と日本の NGO の支援事例の紹介とともに、これまでの日本の若者・成人の識字・ノンフォーマル教育支援の成果と課題、マラケシュ行動枠組み内容をどう実践に移すかを含む今後日本として取り組むべきことを、特に①識字と職業訓練、生計向上を促進するためのアプローチ、②紛争、気候変動、COVID-19 などの様々な危機下での若者・成人教育の役割、③識字・ノンフォーマル教育分野の日本の支援強化のための方策について議論します。

3. 主な参加対象者

- ①国際教育協力に従事する実務者（JICA、開発コンサルタント、NGO、国際機関関係者など）
- ②途上国での教育支援に関心のある学生など一般の方

¹ UNESCO. 2023. *Global Education Monitoring Report 2023: Technology in education – A tool on whose terms?* Paris, UNESCO. <https://unesdoc.unesco.org/ark:/48223/pf0000385723>

4. 使用言語


日本語

5. 開催方法

オンライン開催

6. 登壇者（写真付きプロフィール）

<p>ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) 教育協力部長 大安 喜一（おおやす きいち）</p>	
<p>1992 年からユネスコ・バンコク事務所で初等教育・識字教育担当官、2008 年からユネスコ・ダッカ事務所で教育担当官、2016 年 7 月より岡山大学グローバル・パートナーズ教授を務め、2018 年 7 月より現職。東京医療保健大学特任教授、2022 年まで岡山大学教育学研究科客員研究員。博士（人間科学）。</p>	
<p>JICA オルタナティブ教育推進プロジェクトフェーズ 2 チーフ・アドバイザー 大橋 知穂（おおはし ちほ）</p>	
<p>不就学児童の教育のアクセスと質の保障、成人識字とスキル・コミュニティ学習の促進などが専門。2008 年からパキスタン。デジタル化など社会が日々変化する中で、若者の学び生きる力を教育制度はどれだけ受け止め支えていけるのか模索中。今の活動は以下のマンガをご参照ください。 https://www.jica.go.jp/Resource/publication/manga/pakistan_NFE.html</p>	
<p>シャンティ国際ボランティア会 教育事業アドバイザー 三宅 隆史（みやけ たかふみ）</p>	
<p>シャンティ国際ボランティア会のタイ国境のミャンマー難民キャンプ、アフガニスタン、ネパールで各事務所所長を務め、ノンフォーマル教育事業に従事した。教育協力 NGO ネットワーク事務局長、立教大学文学部特任教授（社会教育・成人学習論）、開発教育協会</p>	

<p>理事、SDGs 市民社会ネットワーク教育ユニット幹事。教育学博士(上智大学)。共著に『SDGs と開発教育』(学文社)、『途上国世界の教育と開発』(上智大学出版)等がある。</p>	
<p align="center">国際協力機構 (JICA) 人間開発部基礎教育グループ 基礎教育第1チーム課長 中条 典彦 (ちゅうじょう よしひこ)</p>	
<p>大学卒業後、高校教員、青年海外協力隊を経て、JICA 入構。2012 年から人間開発部基礎教育グループに所属し中南米、大洋州のほか、ラオス、アフガニスタンでの案件を担当。その後、パプアニューギニア事務所、北陸センターでの勤務を経て 2022 年 2 月より現職。アフリカ以外の地域の基礎教育協力案件を所掌。</p>	

7. 次第

時間	内容	発表者／司会
14:00-14:05	オープニング	小荒井理恵 教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) 事務局次長
14:05-14:20	識字・ノンフォーマル教育とは、マラケシュ行動枠組み内容と日本の国際教育協力への示唆	大安喜一氏
14:20-14:40	JICA の支援事例：パキスタンにおける「誰ひとり取り残さない」教育の制度化—不就学児童・若者・大人の学びの保障	大橋知穂氏
14:40-14:55	NGO の支援事例：ネパール国コミュニティ図書館・リソースセンター能力強化事業の成果と課題	三宅隆史氏
14:55-15:00	コメント	中条典彦氏
15:00-15:10	質疑応答	

15:10-15:35	ディスカッション 日本の国際教育協力（若者・成人の識字・ノンフォーマル教育分野）において、マラケシュ行動枠組み内容をどのように実践に移すか 質疑応答	全登壇者
15:35-15:40	クロージング	小荒井理恵

8. 議論方法

・ディスカッション

議題:日本の国際教育協力（若者・成人の識字・ノンフォーマル教育分野）において、マラケシュ行動枠組み内容をどのように実践に移すか。

- ①識字と職業訓練、生計向上を促進する有効なアプローチはどのようなものか。
- ②様々な危機（COVID-19, 気候変動、紛争など）における若者成人の教育の役割は何か、このような危機下においてより脆弱な人々へ教育支援を届けるためにはどのようなアプローチが有効か。
- ③識字・ノンフォーマル教育分野の日本の支援を強化するために 何をすべきか。

・参加者からの質問への回答

9. 備考

本セッションでは通常版 Zoom（300名まで参加可能）を使用するため、参加者の方のお名前が表示されます。

以上